

令和元年度

学校自己評価報告書

令和2年2月

一般社団法人 山形県歯科医師会立

山形歯科専門学校

I 学校運営基本方針

山形県歯科医師会立歯科衛生士養成校として、「歯科衛生士養成所指定規則」並びに本校「学則」に則り、地域歯科医療を担う、心豊かな人間性と知識とに裏付けられた専門職の育成に努めます。また、長期的視野から、歯科衛生士の社会的認知度の向上を図りつつ、教育活動のさらなる充実をめざして、適切に学校評価を実施することで学校運営の改善を図ってまいります。

II 重点目標

- (1) 充実した学習活動の展開
- (2) 学校の将来構想に係る検討の推進
- (3) 就職・国家試験対策等進路指導の充実
- (4) 学校生活の充実と心身の健康管理
- (5) 学校環境の整備と安全教育の推進
- (6) 関係諸団体・地域社会との連携の推進
- (7) 健全な財務会計の処理
- (8) 学校情報の適切な提供と学校運営の公開

III 令和元年度 学校自己評価について

1 基本的な考え方

本校では、平成28年度から学校評価事業を開始いたしました。初年度は自己評価の基本姿勢として、本校の学校運営全般にわたり。学生・保護者・講師・臨床実習施設長・山形県歯科医師会理事等の関係する当事者がとらえる本校の状況について、意識調査を実施し分析することを基礎におきました。意識調査は、上記II重点目標を評価項目としてとらえ、それぞれに関連する質問を作成して実施しました。そして、それらの結果を総合的に分析し、各目標の達成度を学校自己評価の指標といたしました。

一昨年度からは、第二段階として、よりよい自己評価をめざして、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として評価項目の改良、拡充を行いました。また、初年度から継続的に意識調査を実施し、過年度比較等を含めて当該年度の状況分析をするなど、可能な限り精度の向上に努めております。

今後ともこの学校自己評価の結果を基礎におき、さらなる教育の質向上を図ってまいります。

2 対象期間

平成31年4月1日～令和2年3月31日

3 実施方法

(1) 学校内に設置している「校内評価委員会」の構成員と、同会事務局であるすべての教職員、計12名により評価を行います。

なお、「校内評価委員会」の構成は以下の通りです。

◎ 委員長 校長、 ○ 副委員長 副校長
委員 歯科衛生士科長、同副科長(2名)、事務長、教務主任 (計7名)

(2) 評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。

(3) 評価は、年度一回2月に実施します。

(4) 評価結果の公開は、本報告書、必要に応じてアンケート調査結果等諸資料を学校HPに掲載することにより行います。

4 自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目について実施します。

- 1) 教育理念・目標
- 2) 学校運営
- 3) 教育活動
- 4) 学修成果
- 5) 学生支援
- 6) 教育環境
- 7) 学生の受け入れ募集
- 8) 財務
- 9) 法令等の遵守
- 10) 社会貢献・地域貢献

5 評価項目に対する評価

評価は4～1の得点制とし、基準は以下の通りです。

<適切-4点、ほぼ適切-3点、やや不適切-2点、不適切-1点>

次頁以降に、各小項目毎の12名の評価平均値を記載し、総合得点とします。

なお、点数の文字色は、
青 (3.8～4.0)・・・「良い」
黒 (3.5～3.7)・・・「まあまあ良い」
ピンク (3.0～3.4)・・・「要注意」
赤 (2.9以下)・・・「改善必要」 を示します。

Ⅳ 自己評価に向けた調査

〔評価項目1〕教育理念・目標

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。	4.0	3.9
B 学校における職業教育の特色は何か。	4.0	3.9
C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	3.6	3.8
D 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	3.2	3.0
E 学科の教育目標、育成人材像は、学科に対応する業界にニーズに向けて方向づけられているか。	3.6	3.4

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 「職業実践専門課程」の文部科学大臣認定（平成31年3月5日付）は、本校教育の基礎を固めることに繋がった。関係各位による支援や指導のたまものである。
(A・B・C・E)
- ② 教育課程編成委員会を年2回開催し、本校教育の理念や目標をより明確にするとともに、新しい学則や教育課程の運用状況、その他諸問題について検討・協議した。また、それらを本校教育運営委員会等に報告しさらに検討を加えることができた。
(A・B・C・E)
- ③ 学校の特色等への理解が少しずつ進み、現第1学年在籍者及び次年度入学予定者等、定員充足に近い割合安定した学生数確保に繋がってきている。
(A・B・C・E)
- ④ 学校の理念や特色、将来構想については、学生・保護者ともに理解度を示す調査ポイントが上がっており、浸透が進んでいると思われる。(D)
- ⑤ 超高齢社会における多職種連携の重要性を踏まえた東北文教大学との交流事業は

とても有意義なものであり、今後も長く続けて行くことで、歯科衛生士としての近未来社会への対応がより充実したものになると思われる。(A・B・C・E)

- ⑥ 学校HPをスマートフォン（以下、「スマホ」という。）対応にしたことにより、各種学校情報について、HP上に公開することができ、広報の実が上がった。(D)
- ⑦ 今年度も本県歯科医師会員に学校要覧を配付し、学校への理解を高めた。(D)

(3) 次年度への課題

- ① 保護者への理解を深めるために、保護者実習等の機会を通して、歯科医師と保護者が対話や面談をする機会があれば良いと思われる。保護者への様々な周知方法を工夫すべきである。(D)
- ② 歯科医療の高度化や、超高齢社会における多職種連携の重要性など、近未来社会への対応について、今後よりも模索していく必要がある。(A・C)
- ③ 次年度は新教育課程完成年度となり、学修状況等について様々な視点から検証を行い、改善点を全体的にまとめていく必要がある。(E)

[評価項目2] 学校運営

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 目標等に沿った運営方針が策定されているか。	3.9	3.8
B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	3.9	3.8
C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	3.9	3.8
D 人事、給与に関する規程等は整備されているか。	3.3	3.2
E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	3.4	3.1

F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	3. 5	3. 5
G 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3. 8	3. 8
H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3. 0	3. 0

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 教育運営委員会は学校運営の統括会議としての機能を果たした。また、山形県歯科医師会理事会（以下、「形歯理事会」という。）への報告や提案、理事会からの指導助言等が適切に行われ、さらには、「広報」担当等他領域や他団体との連携も進み、協働での活動の場面が増えたことは大きな前進と言える。（A・B・C）
- ② 学校評価事業は4年目を迎えたが、関係諸規定を適切に運用して円滑に実施することができた。昨年度あげられた課題については各段階で検討し、改善に向けて努力した。（A・B・C）
- ③ 教育課程編成委員会で検討したことが学校運営改善に反映され、実質の伴った会議運営ができています。（A・B・C）
- ④ 学校図書室運営検討委員会を年2回開催し、学習環境改善や図書の整理・整備、PC環境の整備、図書室の利用促進等について協議した。学習センターとして機能が充実し、「テーマ研究」や国家試験対策の学習に利用する学生が増加している。
また、蔵書数増大に向けて寄贈図書の公募（関係者）を開始した。（A・B・C）
- ⑤ 学校HPを全面改良・スマホ対応としたことにより広報の実効が上がっている。また専用ブログやインスタグラムの更新が頻繁に行われ、各種学校情報や特色等の広報を様々な形で行うことができた。（G）

(3) 次年度への課題

- ① データ集計などはITを活用することで、できる限り教務職員の業務軽減を図り、授業や面談等学生への手立てや学習の充実に充てる時間を確保すべきである。（H）
- ② 時間割作成等を含めて校務運営のシステム化や効率化は必要であるが、現時点の職員数や業務分担では十分な改善は難しいと思われる。（H）

- ③ 就業規則の勤務時間の割り振りが学校の教育活動等と不整合の部分があり、再度調整が必要である。(C・D)
- ④ 運営組織の意志決定機能は充分備えられているが、外部委員の意見をもっと細部にわたって活用できるように工夫するべきであるとする。(A・B・C・E)

[評価項目3] 教育活動

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	3. 8	3. 8
B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3. 5	3. 7
C カリキュラムは体系的に編成されているか。	3. 8	3. 8
D キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫や開発などが実施されているか。	3. 5	3. 8
E 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成や見直し等が行われているか。	3. 8	3. 5
F 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	3. 7	3. 7
G 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3. 6	3. 8
H 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	3. 8	3. 8

I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	3. 7	3. 8
J 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	3. 7	3. 7
K 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	3. 1	3. 2
L 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか。	3. 3	3. 3
M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	3. 5	3. 5
N 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3. 4	3. 7

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 新しい学則と教育課程の運用が開始され2年間が経過したが、概ね良好な状況で推移している。(A・B・C)
- ② 臨床実習の実施に係り、本校職員がすべての実習先を訪問し、実習指導者（歯科医師・歯科衛生士）との意見交換等を行った。新しい評価法についても少しずつ定着している。(D・E・F・H)
- ③ 臨地実習においては、全ての協力校・協力施設と連携にかかる文書の取り交わしを行うとともに、対面による詳細な打ち合わせを行うことで、ライフステージ等状況に応じた適切な実習を行うことができ、その充実度は向上している。
(B・D・E・F)
- ④ 第3学年「テーマ研究」発表会について、一昨年度から引き続き公開授業として実施し、数多くの参観者を得て、内容の濃い学習の場となった。また、昨年度の総括をもとに研究過程にかかる日程設定に少しゆとりを持たせることができ、これまでよりは3年後期の多忙感を解消することができたと思われる。(D・H)
- ⑤ 学校間教育連携について、東北文教大学短期大学部学生と年2回の相互交流を行い、大変意義のある学習を展開することができた。また、山形美容専門学校と連携

交流も年3回行い、内容の向上が図られた。さらに、今年度から近隣の高校（山形学院高等学校）の1年生に体験学習の場を提供する事業が開始され、有意義な交流となった。（G・E・F）

- ⑥ 多職種連携教育や「テーマ研究」等の取り組みを報道機関の取材を通して、広く広報することができた。（D・E）
- ⑦ 昨年度より開始した授業評価について、学生の「授業アンケート」、そして指導者の「授業状況総括表」として実施し、状況把握に努めた。また、それぞれその集約結果については関係諸会議に数値データの報告を行った。（G・L）
- ⑧ GPAを用いた学習達成度評価により、これまでより正確な学力把握や意欲向上に向けた指導が可能となった。（I）
- ⑨ 特別な配慮が必要な学生に対し、学則等に則り迅速に対応することができた。（I）
- ⑩ 教職員研修は、「教務研修規定」に則り行っている。（M・N）

（3）次年度への課題

- ① 3年生後期における学生の多忙感の解消について、「テーマ研究」取り組ませ方をはじめ、さらに工夫を重ねて行く必要がある。（B・D・J）
- ② 歯科衛生の専門性向上とともに、多職種連携に対応できる知識や技術を修得し、姿勢や意欲を培うため、大学や専門学校の学生、さらには高校生との連携交流をさらに推進していく。（D・E・F）
- ③ 授業評価の精度と効果向上に図るため、各科目の中間期簡易総括という区切りを設ける。当該授業の改善に資することとともに学生の意欲向上をめざすなど、授業評価の有効性と質向上をめざす。また、学生に自由記述欄をもっと活用させることで、状況把握の精度を上げる。（G・L）
- ④ 学習成績の状況について、学生への指導や支援を強化するとともに、保護者にその状況について早期に、かつ適切に伝達するしくみを作り、協力体制を確かなものとする。（I）
- ⑤ 講師や実習指導者の選定にあたり、もう少し精度の高い評価とともに年齢の上限等の要件についても検討していく必要がある。また、指導内容に若干程度の違いも見受けられ、是正すべきである。
さらに、次年度に向けて学校教務1名の採用を検討する。中長期的な職員構成を見通しながら人材確保を行う必要がある。（K・L）
- ⑥ 教員の能力や指導力向上に向け、校内相互研修を含めて、各種研修をさらに充実

させ、また最新情報の共有化の体制を作る。(M・N)

- ⑦ 学校の体制としては年々充実してきているが、それが学生側に実感として充分伝わっているか、一方通行になっていないか確認する必要がある。(A・B・C)

[評価項目4] 学修成果

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 就職率の向上が図られているか。	4. 0	3. 9
B 資格取得率の向上が図られているか。	3. 5	3. 8
C 退学率の低減が図られているか。	3. 2	3. 6
D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3. 1	3. 1
E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか。	3. 1	3. 1

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 昨年度と同様に国家試験の全員合格、資格取得100%を目指し、思いを同じくして学校全体で指導に当たっている。学力分析会を重ねることで情報共有が図られ、有効な具体策の検討に繋がっている。(A・B)
- ② 特別な配慮や指導が必要な学生に対し、教務、学校全体で細やかにサポートを行う体制ができており、今年度これまで中途退学者等が一人も生まれていないことは大変喜ばしいことである。(C)
- ③ 就職内定者の職場体験にかかる申し合わせを見直し、内定時期に関係なく全員が同様に実施する体制にした結果、年内の内定者が増大した。(A)

(3) 次年度への課題

- ① 歯科衛生士としての意識向上と、専門職の自覚をうながす教育を強化する。
(B・C)
- ② 国家試験対策のスタート時期をできる限り早期にし、全員合格を達成する学校全体のサポート体制をさらに強化できるよう検討する。(B)
- ③ 個別面談や保護者面談を繰り返し、さらには学校カウンセリングを適宜実施することも含め、学校と家庭の連携を密にして丁寧な指導を行い、不適応による退学者等をなくす。(C)
- ④ 卒業後1年以内の離職率を減らすために、卒業直前期におけるセミナー開催等の工夫が必要と思われる。(D)
- ⑤ 卒業生の社会的活躍が充分把握できておらず、一定期間(例として、1～2年後)経過した後にアンケート調査を実施するなどの方策が必要である。また、講演や講座を企画することで、同窓生の活躍を知る機会を設定する。(D・E)
- ⑥ 在宅の資格所有者に対する復職支援研修会の内容や設定について、県歯科医師会、県歯科衛生士会や本校同窓会と連携し、さらに工夫していく。また、各団体と連携しながら、歯科衛生士有資格者に情報発信を適宜行う。(D)
- ⑦ 高齢者歯科診療需要の増大に対応する研修や広報を充実させる。(D・E)

[評価項目5] 学生支援

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 進路や就職に関する支援体制は整備されているか。	3.8	3.8
B 学生相談に関する体制は整備されているか。	3.8	3.9
C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	3.8	3.8

D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3. 3	3. 4
E 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	3. 3	3. 2
F 学生の生活環境への支援は行われているか。	3. 3	3. 0
G 保護者と適切に連携しているか。	3. 6	3. 4
H 卒業生への支援体制はあるか。	3. 7	3. 6
I 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3. 7	3. 6
J 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	3. 4	3. 6

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 各学年段階に応じた担任教務との個別面談や保護者面談、進路選択・決定期においては教務主任面談を繰り返し、可能な限り支援体制を充実させた。(A・G)
- ② 学校カウンセラーによる教育相談が順調に行われ、概ね目的を達成できたと思われる。また、担任教務や教務主任との面談も有効であった。(B)
- ③ 昨年度より本校独自の修学支援事業を開始し、「特待生制度」と「奨学生制度」の二つについて円滑に運用することができた。また、その効果として、学ぶ意欲のある学生が増えてきている。今後さらに、地域に貢献することの意義を浸透させていくことが大切である。(C)
- ④ 山形県当局より「高等教育の修学支援新制度」の機関確認をいただき、次年度からその対象校として制度を運用することができることは大変喜ばしい。(C・I)
- ⑤ 厚生労働省「専門実践教育訓練給付」講座指定校として、順調に当該事務を遂行した。(C・I)
- ⑥ 夏季休暇期間中に1年生の母校訪問を行っているが、高校の担当教諭からの返信

としてとても丁寧で前向きな言葉がたくさん届き、大変有意義な取り組みであると思われ、今後もさらに充実させていきたい。(A・B・J)

- ⑦ 今年度より、山形学院高等学校と連携し、看護医療コースの生徒による本校見学や体験学習を行ったが、有意義であった。(J)

(3) 次年度への課題

- ① 本校独自の修学支援事業のうち、「奨学生制度」の定員を充足させる。(C)
- ② 今年度は社会人の入学予定者が複数名となっているが、今後さらに増員を目指し、厚生労働省「専門実践教育訓練給付」制度を有効活用できるようにする。(C・I)
- ③ 「高等教育の修学支援新制度」の運用をしっかりと行う。(C・I)
- ④ 求人票の見方や社会保険等に関する指導について、外部専門家の講座を設定することを検討すべきである。(A)
- ⑤ 経済支援体制の諸制度(校内外)について校内掲示を行い、もっと広報をしていく必要がある。(C・I)
- ⑥ 学生の健康管理は教務全体で担っているが、担当者の割り当て等指導体制を整備していく。(D)
- ⑦ 学校の特質上、課外活動を推奨することはなかなか困難な面があるが、県や地域のイベント等に対応することで社会性の涵養に努めていく。(E)
- ⑧ 保護者との適切な応接を学ぶ研修会が必要である。(G)
- ⑨ 卒業生との窓口ツールとして、学校HPの利用ができないか検討する。(H)

[評価項目6] 教育環境

(1) 評価得点

評価項目	昨年度	今年度
A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3.3	3.3

B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	3. 2	3. 2
C 防災に対する体制は整備されているか。	3. 6	3. 5

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 学校図書室運営検討委員会を年度2回開催した。外部委員2名を含め、施設整備や図書の整理・拡充、利用促進等について協議することができた。(A)
- ② 学校図書室の学習環境が整備され、「テーマ研究」や試験対策等で利用しやすくなった。(A)
- ③ すべての臨床実習施設を訪問し、院内見学や各指導者との面談を行い、よりよい教育体制構築に向けて共通理解を図ることができた。(B)
- ④ 大規模災害時の口腔ケア等にかかる防災講話を開催し、意識の喚起を図った。(C)
- ⑤ 記録可能な防犯カメラを設置し、学生や教職員等の安心・安全確保を図った。(C)
- ⑥ 学生対象の緊急連絡システムを来年度より運用することが決定した。(A)

(3) 次年度への課題

- ① 施設・設備は教育上最も基本的な要件であり、必要に応じて速やかに対応しなければならない。更衣室増設のほか、4F実験室の環境整備が必要である。(A)
- ② 防災用品（毛布・食品）の保管について定期的に点検する。(C)

[評価項目7] 学生の受け入れ募集

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 学生募集活動は適正に行われているか。	3. 8	3. 8

B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3. 8	3. 9
C 学納金は妥当なものとなっているか。	3. 8	3. 8

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 今年度より一般入選第Ⅰ期の日程を年内に変更したこともあり、応募状況がやや改善している。(A)
- ② 進路に係る会場ガイダンスや高等学校主催の進路研修会等、個別の学校訪問や教員対象の募集要項説明会、そして年3日(計6回)のオープンキャンパス開催や中学校への出前講座等、対面しての広報が少しずつ効果を上げている。(A・B)
- ③ 学校HPを全面改良・スマホ対応としたこと、専用ブログに加えてインスタグラムの更新が頻繁に行われ、各種学校情報や特色等の広報を様々な形で行うことができた。(A・B)
- ④ 昨年度開始した本校独自の修学支援事業や「高等教育の修学支援新制度」「専門実践教育訓練給付金」等の経済支援にかかる広報について、高校訪問や進学ガイダンス、オープンキャンパス、学校HP等各方面で行った。(A・B)
- ⑤ 一昨年度に引き続き、山形駅東西通路のデジタルサインボードでの広報を行って好評を得た。(A・B)
- ⑥ 学校間連携事業やテーマ研究発表会、戴帽式等について、報道機関の取材があり、広報の実が上がった。(A・B)

(3) 次年度への課題

- ① 高校訪問、各会場での進学ガイダンス、中学校への出前授業、メディア等により、歯科衛生士の仕事について、さらに理解の浸透を図っていく。(A・B)
- ② 山形県歯科医師会の他部門の取り組みとの連携をさらに強化する。(A・B)
- ③ 入学者への聞き取りを行い、本校選択のきっかけや参考媒体、紹介者等について広範に調査する。(A・B)
- ④ 男子学生や社会人の受け入れを意識した広報活動を推進する。(A・B)

[評価項目 8] 財務

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	3. 1	3. 3
B 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか。	3. 2	3. 4
C 財務について会計監査が適正に行われているか。	3. 8	3. 8
D 財務情報の公開の体制整備はできているか。	3. 3	3. 8

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 予算の執行や財務管理は適切に行われた。(B・C・D)
- ② 本校独自の修学支援制度の運用について、手続きや事務処理等大変円滑に行うことができた。(B)
- ③ 学校HP上に財務状況の概略を公開し、客観性を担保した。(D)

(3) 次年度への課題

- ① 厚生労働省「専門実践教育訓練給付」制度を有効活用し、また、「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として、社会人や低所得者層の入学者を増員する。(A)
- ② 学校の魅力を広報するとともに本校が備えている各種制度の周知を徹底し、入学希望者の増大に役立てる。(A)
- ③ 定員充足が最も大きな課題であるが、一方で、適切に予算を削減することとともに、日常的に経費節減を心がけ、安定的で継続性のある経営をめざすことが必要である。(A・B)
- ④ 本校独自の修学支援制度は大変有意義だが、長期的な財政計画を考える必要がある。(A・B)

- ⑤ 財務に係る職員間の情報共有を進めるべきである。(B)

[評価項目 9] 法令等の遵守

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3.9	3.8
B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3.9	3.8
C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	3.9	3.8
D 自己評価結果を公開しているか。	3.9	3.8

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 県庁所管課の指導のもと、「職業実践専門課程」の文部科学大臣の認定（H31.3.5）を得ることができた。(A)
- ② 山形県当局より「高等教育の修学支援新制度」の機関確認を受け、対象校となることができた。(A)
- ③ 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、学校図書室運営検討委員会を各年2回開催し、それぞれ委員委嘱した企業等委員や外部有識者の意見を学校運営に反映させることができた。(A・C)
- ④ 学校評価事業開始4年目を迎えているが、評価結果については例年県庁所管課2課と形歯理事会に報告をしている。また、その総括を通して学校の運営改善に大きく役立てることができた。さらに、自己評価や学校関係者評価の実施は、関係者の意識を高めるとともに、それを学校HP上で公開することにより、社会的な信頼獲得が図られていると思われる。(A・C・D)
- ⑤ 学校HP上に「情報公開」欄を設け、文部科学省が示すガイドラインに従い学校

情報を公開した。(A・C)

- ⑥ 「個人情報保護方針」を学校HP上に公開している。(B)

(3) 次年度への課題

- ① 公開した情報や学校生活に関連した事柄について、保護者に対してできる限りの周知を図るとともに、一般の方々に幅広く浸透させていく方策を検討する。(D)

[評価項目 10] 社会貢献・地域貢献

(1) 評価得点

評価項目	昨年度	今年度
A 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3.6	3.4
B 学生のボランティア活動を奨励や支援をしているか。	3.8	3.6
C 地域に対する公開講座や教育訓練（公共職業訓練等含）の受託等を積極的に実施しているか。	3.4	3.4

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 一昨年度から引き続き第3学年「テーマ研究」発表会を公開授業とし、歯科医療への関心向上の一助とした。(A・C)
- ② 「歯科専祭（学園祭）」の一部に、保育園児（幼児）向けコーナーを設置できたのは良かった。(A・C)
- ③ 学校周辺の地域清掃ボランティアを年2回（7月・12月）に実施した。(B)
- ④ 歯科医療関連の各種ボランティアへの参加を奨励し、社会参加を促した。(B)
- ⑤ 山形を代表する祭り「花笠」パレードへの参加とともに、東北地区「絆まつり」や山形市「祭りだワッショイ！」へ代表団体として参加し、活躍した。(A・B)

(3) 次年度への課題

- ① 「歯科専祭」の内容を大幅に改善し、活性化を図る必要がある。地域密着型のイベントや幼児向けブース等工夫をする必要がある。また、曜日設定も再度検討し、より多くの参加者獲得を図る。(A・C)
- ② 第3学年「テーマ研究」発表会の公開を継続し、本校の主要な行事として位置づけ、高校生や一般参加者の増大をめざす。(A)
- ③ 学生や教職員の負担軽減を図るため、実施時期等を勘案し参加する地域行事を精選する必要がある。(A)
- ④ 学生自治会が中心となり数グループを構成し、自主的なボランティア活動を企画できるような環境を整えられないかを検討する。(A)